

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392401028		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム 慈幸苑		
所在地	玉名市横島町横島2493番地1		
自己評価作成日	平成25年2月8日	評価結果市町村受理日	平成25年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれ、苑のリビング、居室より有明海・雲仙と一望できる絶好の眺望である。沈む夕陽に季節の移り変わりを感じる環境に位置する。

当苑は、入居者様、家族様、スタッフを一つの家族と捉え、理念に沿い入居者様の”今”、”この時”を大事にお一人お一人の能力を存分に発揮して頂けるよう職員一同共通の意識の元、日々支援している。季節に応じた外出機会も多く取り入れ、又法人の協力を得ながら入居者様の”行きたい”との声にも柔軟な対応が出来、沢山の笑顔を頂いている。又、隣接する事業所の相互理解の上に協力体制が整い、入居者様が安心して暮らして頂ける環境を最優先にサービス提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有明の海を一望しながら『グループホーム慈幸苑』が展開する入居者・家族の思いに応える支援は、入居者が高齢化・重度化しようとも法人の変わらぬ姿勢を継承し、職員の高い介護技術や志により穏やかな日常が展開されている。また、家族の支えはこのホームの最大の特徴でもあり、掃除道具持参で毎年行われる年末の大掃除や正月準備、日帰り旅行、ホームを訪れる家族を温かく迎え入れる職員の姿など家族との連携の強さは訪れるたびに強固なものとなっている。入居者の”今”に優しく、笑顔で対応する職員の姿は清々しく、家族の信頼に繋がっていることがあらゆる場面からも窺い知ることができる。今後も入居者・家族と一体となって変わらぬホームならではの支援が継続されることが大いに期待される。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人一人が利用者と向き合い安心して暮らして頂けるよう支援している。常に目に付く所に理念を置き共有できている。	日頃から理念への意識を持って業務にあたることできるよう日誌に添付されている。管理者は新職員に理念やホームの取り組みについて話を行い、その人の立場に立って接するよう伝えながら、志を一つにケアにあっている。また、年度初めの運営推進会議でも、理念や方針について説明を行う事でホームの理解に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の商店への買物同行にて、近所の方々と会う事もあり、又併設のデイサービス御利用日に合せ赴き、馴染みの方との交流を続けている。	入居者は外出を兼ねホーム周辺を散歩しながら畑作業中の人々と会話を交わしたり、顔なじみである近隣商店の利用は継続して支援され日常的な交流となっている。小・中学校の福祉体験の受け入れや、今年度は小学校の公開授業に出席し、バレエ公演を鑑賞するなど年々地域との新しい交流が深まっている。	今後も継続した地域との交流や新しい交流が展開されていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地元スタッフによる地区での会合時、実践で得た技術、知識を伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議の中でご利用者の生活ぶり、行事、外出事等の報告を行い、メンバーさんからも質問、意見を頂きながら質の向上に努めている。	定期的開催されている会議は、苑だよりを参考に出来事や、入居者の日々の暮らしぶりなど現状を報告する中で質問や提案を確認している。「会議と昼食会を兼ねてはどうか？」という提案を受け、次の回では会議時間の開始を早め、準備の段階から参加してもらい一緒に調理が行われた。昼食は会話も弾みメンバーから「少しの手助けで力を発揮できるのですね！」と、うれしい感想が出されている。家族への会議の報告は家族会の中で行い共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、現状報告を行っている。不明な点等は相談、助言頂いている。	毎回、推進会議に行政からの参加が得られており、ホームの現況を実際確認してもらいながら意見や提案を受ける他、必要に応じ役所を訪れたり電話で相談や研修会の問い合わせを行うなど良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での勉強会開催に加え、法人の方針である「鍵なし、眠剤なし、抑制なし」が周知徹底できている。	法人の掲げる方針のもと職員は拘束のないケアを周知徹底している。ホーム内は施錠もなくオープンであり、入居者の所在確認を自然な雰囲気の中で行っている。職員のチームワークにより入居者に自由な生活が支援されていることが、あらゆる場面で確認された。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の情報の共有を徹底し、虐待が起きない様な体制作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等、閲覧できる様にしており、又情報が必要な家族には随時提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類にて、説明、納得頂いてサービス提供へと繋げている。又、不明な点はいつでも問い合わせ頂けるよう言葉かけをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や面会の折に意見を頂き、スタッフ全員で話し合い、又、法人からのアドバイスを頂きながらよりよい苑運営へと繋げている。	日々の関わりの中で入居者の言葉から要望を引き出している。また、職員は入居者・家族へ「いつでも、何でも言ってください！」と伝え、信頼関係を大切にしたホーム運営を心がけている。このことは変わらぬ家族会運営や、家族参加の日帰旅行、年末の大掃除支援など多くの家族協力支援に表れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の業務の中でその都度話し合いを行い、意見反映に繋げている。	二・三ヶ月に一度開催されるホーム会議や業務の中で職員の意見や提案を確認しホーム運営に活かしている。絵を得意とする職員の指導のもと入居者に絵手紙を楽しんでもらい、完成した作品の掲示は本人や家族の楽しみに繋がっている。また、法人副施設長は機会あるごとにホームを訪れ職員と会話を交わし、業務の指導や要望を確認し力を発揮できる働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休、病気自己都合による勤務交替等スタッフ同士で協力出来る体制が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や施設外への研修会の参加、参加後の伝達を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市グループホーム連絡協議会へ参加し、定期的な交流、情報交換が出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問を行い、本人や家族の思いを聞き、不安除去を行い寄り添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問を行い家族の意向に沿った支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向、思いを十分把握し、必要な支援ができる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、家族、職員を一つの家族と考えており日々大家族で暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も含めた”大家族グループホーム慈幸苑”と捉えており家族と共にご本人今を大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人のデイ利用の友人への面会も行かれています。又、地域に住む御友人のホームへの面会もある。	入居者にとって大切な家族や知人が気軽に訪問できるよう職員はいつでも笑顔で迎え入れ、居室やリビングなど希望に応じた面会場所に案内している。また、どんどや・もぐらうちなど古くから伝わる地域行事に触れる機会を大切に支援している。小学校の同級生であった入居者による、童謡『こがねむしのうた』は、踊りも見事であり昔慣れ親しんだものがこれだけ、忘れることなく心に残るものなのかと、心打たれる光景であった。	今後も入居者にとって馴染みや趣味、特技、こだわりなどを把握し、継続して支援されることに期待した。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時は手を取り合い助け合われる姿も見られる。リビング内では座位置を工夫し、会話の仲介行い一人となれないように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後も訪問し会話の時間を持つよう努める。退所された後も来苑される事もあり利用者を中心に家族との会話の時間も多し。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様がホームでどのような暮らしを望まれているかを会話の中や行動から気持ちを把握しスタッフ間での情報共有に努めて本人様の気持ちに沿った支援	一人ひとりの思いに応える支援の大切さを全職員で共有し、日々の関わりの中で、入居者が発した言葉を記録に残し、プランに繋げている。また、家族の来訪時には近況を伝える中で、本人の思いや意向を引き出し、気づいた事項などを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問で利用者の生活歴を把握し、又、家族との会話の端々から馴染みの暮らし方等情報を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細な記録を残し、一人一人を理解する事に努め、現状を見極め、お一人お一人の生活のリズムを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間では必要時ホーム会議を実施し、ケアプラン担当者は状況を皆で把握できる様問題点等提起し、現状の把握に努め、法人関係者からも意見を頂きながら現状に沿った支援を行っている。	本人の思いや家族が一番大切にしたいこと、職員の提案や気づきを組み入れ作成したプランは、三ヶ月で見直しを行い、現状に即したプランとしている。計画作成担当者は家族との話し合いや説明を行う場合、確認を行いながら進め、納得のうえ了承を得ている。個々のファイルは職員が入居者の現状、支援方法がわかりやすくまとめられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、入浴時、準夜・深夜とケース記録に詳細に残し情報を共有し、日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年末年始の外出・外泊、法事、食事会など突然の申し出にも対応し、その時、その日を大事にする支援を行っている。又、天候や体調を見ながら外出行事を行うなど法人の協力を得ながら柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の行事への参加。又小学生の訪問等あり、当施設の行事では地域の各団体のボランティアの多数の参加もあり支援に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携も確立しており、又1回／週の嘱託医の回診もあり、急変時は都度対応できる体制がある。専門医の受診必要な場合、家族が都合つかれない場合は宛にて対応出来る体制がある。	入居者は法人の協力医療機関をかかりつけ医として母体への訪問診療日に合せ受診に出かけている。皮膚科や眼科など専門医への受診へは家族も協力しているが、状況によってはホーム側が同行している。職員は入居者の普段の状態を把握した上で、表情の変化や歩行状態、食事の際の異変などを見逃さず適切な医療支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である特別養護老人ホームの看護師による医療連携体制が整っており変化や異常に早く対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合、認知症の進行するケースがあり、本人様の気持ち、家族の気持ちを踏まえスタッフが病院へ出向き馴染みの顔を見せることもある。病院関係者と情報交換を密に行い、早期の退院へと繋がる支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの文書に御記入頂き、本人様の状況に応じ、御家族と話し合いを持ちながら本人、家族が望まれる最後が迎えられるよう取り組んでいる。	入居時にホームの方針を説明し看取り介護について、現時点での家族の意向を事前確認書で把握している。その後入居者の状態を見ながら必要な時点で再度確認し本人、家族の希望によっては看取りを見据えた終末期への取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ連絡報告の徹底がなされている医療連携体制がある。救急蘇生法の勉強会を消防士立会いにて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、避難訓練等が消防署地域の消防団立会いのもと安全に避難できるよう定期的に実施している。	昨年度の外部評価結果を受け、地元消防団の訓練への参加が実現し、建物内部や入居者の状態把握が行われるなど改善が図られている。他県で起こったグループホームの火災を教訓に職員で話し合いの場を持ち、毎朝の掃除で建物周りの安全点検を実施したり、事務所内に非常持ち出し袋を用意するなど安全対策への取り組みを進めている。又、高台であることから台風時にはドアやカーテンを閉め一箇所に集まることなどを事前に申し合わせている。	ホームは立地的に集落から少し離れた高外に位置するため、今後も消防団や地域住民との連携が継続されることに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳やプライバシーに配慮し、失礼のない様にお一人お一人に応じた声掛けを行い、失禁時には他者に分からない様声掛けし、本人様が嫌な思いをされないよう気配りをしている。	長年生活を共にする職員と入居者は互いを思いやり、入居者に馴染みのある方言を交えながら言葉を交わしている。失禁時のさり気無い対応や入室時のノックを徹底し、呼称は以前から呼ばれていた苗字や下の名前にさん付けで対応している。入居者の湯飲みにお茶を継ぎ足す職員の「熱かつばかてときますねー」の一言から日頃の関りが見えてくるようである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望が表現しやすい様な「どうしますか?」「どうしましょうか」とまず尋ねている。本人様が答えやすい様な質問や自然と体が動く様な雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気分や状況に応じた働きかけに心掛け、その方がどのように過ごしたいのか?を大切に、希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣不十分な時は、さりげなく声掛けを行い、その季節に合った洋服選びを一緒にやっている。又、理髪では地域の美容院や法人に定期的に来苑される理容サービスを利用頂ける支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を計画的に決めるのではなく、その日の入居者の気分、希望に応じたメニューを作っており、家庭菜園で収穫した食材の下ごしらえや入居者と共に旬の食材を取り入れながら、食事作りから片付けまで展開している。	食事は事前に献立を決めるのではなく、入居者にその日の希望を尋ねながら差し入れ野菜や果物を活用し、季節感ある料理を提供している。内容を事後記録として残し三食とも喉越しの良い汁物をつけるようにしている。入居者と共にこしらえる切り干し大根や干し柿、梅干などの保存食や毎月一日の小豆ご飯、数々の行事食は工夫を凝らし、食の楽しみを広げている。食べる前には献立を説明し食事のペースに配慮したテーブル配置をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人さんの今の状況に応じた形態や量を個別に対応している。職員は共に過ごす事で、水分や食事の摂取量を把握し、一日の必要量がトータルで補給できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後、声掛けを行い、各居室にて行っている。磨き残しがあれば再度声掛けをしている。介助拒否られる方にもタイミング見計らい、気持ちの向く声掛けにて実施出来ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導ノートを活用し、長時間排泄の動きがない場合は、他者に分からない様に声掛けし、気持ちよく排泄へ繋がるよう支援している。	開所時より排泄への取り組みは受け継がれ、日中は布下着もしくは排泄用品との併用によりトイレでの排泄を基本としている。布下着による支援は入居者の動きを妨げず家族の負担軽減にも繋がっている。夜間帯のみポータブルトイレを使用される方にはその都度、尿量を確認して洗浄しながら衛生的に管理し、同様にトイレ掃除を徹底して何時でも清潔な状態で使えるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫(食物繊維、海藻類)や乳飲料(牛乳、ヨーグルト)を取り入れ、又、散歩にて適度な運動をして頂き、緩下剤に頼らない排便を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4～5回の夜間入浴の他に日中での入浴にも対応し、個々の入浴習慣の継続を支援している。	専任の職員による夜間入浴や希望に応じた日中での入浴を支援している。数年を経ても手入れの行き届いた浴室でしよう湯等の季節風呂を支援し、一人ひとりにゆっくり入ってもらおうよう努めている。拒否の方へも声かけをしながら無理強いをせず間隔が遠のかないようにしているが、時には自身で清拭をされる等、個々の力も尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて昼寝をされたり、リビング和室で休憩されたりと、思うように過ごされている。室温の調整もこまめに行っている。冬場は湯たんぽの使用で安眠に繋がる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や看護師からの注意事項等理解の上、誤薬無きように確認を行った上で服用頂いている。又、臨時薬があった場合は状況等は記録に残している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長い間、生花を習っておられた方にはその腕を発揮して頂いたり、庭木の手入れが趣味の方には苑庭の樹木の手入れをして頂いたりと役割を担って頂いている。絵手紙講習会も開いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の“行きたい”の思いを大事に戸外への散歩も付き添い等の支援が出来ている。季節毎の外出行事も行っており、御家族との貸切バスでの日帰り旅行も毎年行っている。	“入居者の行きたい所に行く”をモットーに天候や体調を見ながら早いタイミングで思いに応えている。買い物や散歩、定期受診などの個別外出や季節の花見学や家族によるドライブ支援等が行われている。毎年実施される一日旅行に家族も参加して柳川の川下りを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を所持しておられる方もおり、病院受診の際はスムーズに支払いが出来られる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でもゆっくりとお話が出来るよう環境を整え、会話を楽しんで頂くよう支援している。絵手紙による年賀状の投函で御家族から本人様宛に年賀状が届く等の支援が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には入居者の作品や季節の飾り等で季節感を取り入れている。	高台からの眺めは遠く島原半島を見下ろし、ダイニングと一体となった居間で日中を思い思いに過ごされている。明るい日差しの差し込む窓の外には季節の草花や菜園の野菜を目にし、昼食も時間をかけて楽しみ席を立つ方もおられず、職員と入居者が会話をしながらゆっくり時間を過ごす心落ち着く空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の工夫をし、それぞれ心地よく過ごして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具を持ち込まれている方もあり、家具、インテリア等家族と相談し入居者の混乱とならないよう支援している。	それぞれの居室は馴染みの品が持ち込まれ掃除の行き届いた明るい部屋となっている。外出時はカーテンを閉め、小さな室内灯をつけて出られる等、自宅での習慣をそのままにホームでの生活をされる入居者も居られ、安心して過ごされている様子が確認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	“トイレ”の表示、居室の表札を利用し戸惑いなく移動出来るようにしている。		